

## トウニン

Peach Kernel

PERSICAE SEMEN

桃仁

本品はモモ *Prunus persica* Batsch 又は *Prunus persica* Batsch var. *dauidiana* Maximowicz (*Rosaceae*) の種子である。

**性状** 本品は偏圧した左右不均等な卵円形を呈し、長さ 1.2 ~ 2 cm, 幅 0.6 ~ 1.2 cm, 厚さ 0.3 ~ 0.7 cm である。一端はややとがり、他の一端は丸みを帯びてここに合点がある。種皮は赤褐色~淡褐色で、外面にはすれて落ちやすい石細胞となった表皮細胞があつて、粉をふいたようである。また、合点から多数の維管束が途中あまり分岐することなく種皮を縦走し、その部分はくぼんで縦じわとなっている。温水に入れて軟化するとき、種皮及び白色半透明の薄い胚乳は子葉からたやすくはがれ、子葉は白色である。

本品はほとんどにおいがなく、味はわずかに苦く、油ようである。

種皮の表面を鏡検するとき、維管束による隆起部上の石細胞の形状は部位によりかなりの相違があり、多角形、長多角形又は鈍三角形で、その細胞膜はおおむね均等に厚く、側面視では方形、長方形又は鈍三角形を呈する。

**確認試験** 本品をすりつぶし、その 1.0 g をとりメタノール 10 mL を加え直ちに還流冷却器を付け、水浴上で 10 分間加熱し、冷後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。別に薄層クロマトグラフ用アミグダリン 2 mg をメタノール 1 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 10  $\mu$ L ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/メタノール/水混液 (7:3:1) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに希硫酸を均等に噴霧し、105°C で 10 分間加熱するとき、試料溶液から得た数個のスポットのうち 1 個のスポットは、標準溶液から得た褐色~暗緑色のスポットと色調及び  $R_f$  値が等しい。

**純度試験**

- (1) 変敗 本品に熱湯を注加してつき砕くとき、敗油性のおおいを発生しない。
- (2) 異物 本品は内果皮の破片及びその他の異物を含まない。

## トウニン末

Powdered Peach Kernel

PERSICAE SEMEN PULVERATUM

桃仁末

本品は「トウニン」を粉末にしたものである。

**性状** 本品は帯赤淡褐色~淡褐色を呈し、ほとんどにおいがなく、味はわずかに苦く、油ようである。

本品を鏡検するとき、黄褐色の内容物を含む多角性のだ円形~卵形で長径 50 ~ 80  $\mu$ m の細胞から成る種皮外面表皮片、黄褐色の帽子状~卵状の石細胞を認める。石細胞は表皮の変形したもので、径 50 ~ 80  $\mu$ m, 高さ 70 ~ 80  $\mu$ m,

頂部の細胞壁は厚さ 12 ~ 25  $\mu$ m, 底部は厚さ 4  $\mu$ m で顕著な多数の膜孔が認められる。黄褐色の内容物を含む不整のやや長い多角形で径 15 ~ 30  $\mu$ m の細胞から成る種皮内面表皮片、アリュuron粒及び脂肪油を含む子葉及び胚乳の組織片を認める。アリュuron粒はほぼ球形で径 5 ~ 10  $\mu$ m である。

**確認試験** 本品に水を注加してつき砕くとき、ベンズアルデヒドのおおいを発生する。

**乾燥減量** 8.5 % 以下 (6 時間)。

**灰分** 3.5 % 以下。

**酸不溶性灰分** 0.5 % 以下。

**貯法** 容器 気密容器。

## トウヒ

Bitter Orange Peel

AURANTII PERICARPIUM

橙皮

本品は *Citrus aurantium* Linné 又はダイダイ *Citrus aurantium* Linné var. *daidai* Makino (*Rutaceae*) の成熟した果皮である。

**性状** 本品は、通例、ほぼ球面を四分した形であるが、ひずんだもの又は平たくなったものがあり、長さ 4 ~ 8 cm, 幅 2.5 ~ 4.5 cm, 厚さ 0.5 ~ 0.8 cm である。外面は暗赤褐色~灰黄褐色で、油室による多数の小さいくぼみがある。内面は白色~淡灰黄褐色で、維管束の跡がくぼんで不規則な網目を現わす。質は軽くて柔らかい。

本品は特異な芳香があり、味は苦く、やや粘液性で、わずかに刺激性である。

**確認試験** 本品を粉末とし、その 1.0 g にエタノール (95) 10 mL を加え、ときどき振り混ぜながら 30 分間放置した後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。別に薄層クロマトグラフ用ナリンギン 10 mg をエタノール (95) 10 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 10  $\mu$ L ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/エタノール (99.5) /水混液 (8:2:1) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに希 2,6-ジブromo-N-クロロ-1,4-ベンゾキノモノイミン試液を均等に噴霧し、アンモニアガス中に放置するとき、試料溶液から得た数個のスポットのうち 1 個のスポットは標準溶液から得た灰緑色のスポットと色調及び  $R_f$  値が等しい。

**乾燥減量** 14.0 % 以下 (6 時間)。

**灰分** 5.5 % 以下。

**酸不溶性灰分** 0.5 % 以下。

**精油含量** 本品の粉末 50.0 g をとり、精油定量法により試験を行うとき、その量は 0.2 mL 以上である。ただし、あらかじめフラスコ内の試料上にシリコン樹脂 1 mL を加え、試験を行う。